

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

## 【全体共有 2】

(総合 F) それでは、全体共有に入っていきたいと思います。

グループワーク 1 で、それぞれの班が、原子カムラはあるのか、ないのか、何なのか、そして、原子カムラというものをどうしたらよいか、話し合っていたでき、発表していただきました。

全員がそれを聞いて、質問をしたいことをそれぞれの班に出して、それぞれの班がその質問をきちんと見て、特に答えたほうがいだろうという質問を 2 つか 3 つ、選んでいたいているはずで。それに関して、これから発表いただくということで、1 班 3 分でやります。

今回は、重ねて質問があるときには、その場で受け付けますので、手を挙げていただければと思います。

では、順序として、やはり準備が整った順序ということで、B 班、C 班、A 班という順序でやらせていただきます。よろしいですか？

それでは、A 班と C 班の皆さんは、椅子を持って結構ですので、近くに動いていただければと思います。まずは激励の拍手からお願いいたします。

(拍手)

—— B 班の発表です。皆さん見られてお分かりの通り、「倫理観ってどういうものですか？」という質問が本当は核となる質問だったんですけど、これはちょっと答えがまとまらないところですので、そうではないところから 2 つピックアップして回答させていただきます。

1 つ目が、「意思決定の仕組みはどんな仕組みがいいですか？」というご質問です。実は C 班、まあ、A 班でも出ていたかと思うんですけども、「多様性」という言葉がやはりキーワードなのかなと思っておりまして。例えば、第三者機関で一般の人が議論の場に出たり。あと、企業のトップにも多様性を持たせるべき、ガバナンスの話になってくるのかなと思うんですけども。要は、閉じた業界の人で、分かっている者同士で決めていったからちょっとずれていってしまったところもあるのかなと。だから、こういう形で、意思決定の中に多様な属性を持った人が絡んでいくということが大事ではなかろうか、という回答とさせていただきますと思います。

あとは、失敗してもやり直せる仕組み、という意見が出ました。日本の組織では、1 回失敗すると揚げ足を取るような動きがあるんですが、まあ海外もそうかもしれませんが、そ

うではなくて、まあ、だから「無責任」とも絡んでくる話なのですからけれども、決定しやすい仕組みも必要なんじゃなかろうかというような話が出ました。

2つ目は「倫理教育ってどんなものが良いのですか？」ということで、本当は倫理教育についてお答えをしなければいけないんですけれども、教育というふうに言葉を広げさせていただきます。それに対する回答が、結構似たような感じなんですけど、体験型の教育を推進する。ケーススタディ。過去に発生した事故とか、重大事故に行く前で止まった事例とか、そういうものについて具体例を共有することが必要だと思います。あと、大学で勉強しているこちらの方からお話がありますので、代わります。

—— 「技術倫理」という科目がありまして、JCOの臨界事故、NASAのスペースシャトルの帰還の失敗、ニューヨークのビルの耐震擬装の話を取り上げて、ケーススタディをやっていました。

その中で「経営者の倫理と技術者の倫理は違う」ということがかなり言われていました。この2つは優劣がないと。個人的な感想だと、東電は経営者の倫理のほうが優先されているのかなと。とりあえず、この2つがあるということで、大学ではそういうふうに習いました。

(総合F) ありがとうございます。今回は質問ありですので、どうぞ。

—— 「失敗してもやり直せる仕組み」とありますが、東京電力は事故を起こしたけどやり直せるということでしょうか？

—— 前のままだと駄目だと思うんですね。こういう第三者の声にもちゃんと耳を傾けた上で、あとは、周りが納得するような形で決定をしていくことができるのであれば、個人としては、やりなおせるのかなとは思っています。ただ、押し切るとどうかなと。

—— NASAのスペースシャトルの帰還の失敗の例では、突入することをOKした責任者の方がいるんですけど、まあ、いろいろ周りの方の意見もあって、結局その人が判断したんですけど、結果的にその判断は誤りだったと。その責任者の人は、処罰されるかと思ったんですけど、処罰されなかったんですよ。

どうしてかという、そこで決断できたということが後々また生きてくるだろうということで、今現役かどうかは分からないんですけど、その後もスペースシャトルの打ち上げをその人が担当したり。その後のことは全て成功しているので、もしかしたら、そこで失敗して、経験が活かされたのかなと。だから、やり直せる仕組みが必要じゃないかなと個人的には思っています。

(総合 F) ありがとうございます。皆さん、よろしいですか？

—— 補足なんですけど、NASA の件は、なぜ失敗したのかを非常に細かく分析しているんですよね。ですから、責任者の方は、なぜ失敗したのかを一番よく知っている証言者でもあるので、やはり貴重な人材になっているんですね。ちょっと補足させていただきました。

—— 日本の場合、飛行機などの事故のほうですと、最近は原因究明のための調査委員会というのがあるんですけども、えてして刑罰のほう、いわゆる刑に値するのかどうかという取調べのほうに目がいっちゃって、原因究明のための調査がなかなかされていない。で、刑になってしまうから真実が隠されるというのが、過去ずっと続いているというのがありますので。

まあ、影響が大きいのと、あとは地元の方からしたらちょっと、というところはあるのかもしれないんですけども。本当は、クールにというか、原因究明は原因究明でちゃんとやって、次に同じことを起こさないように持っていく体制というのは、まあ、今もあるんだとは思いますが、よりそこは明確にしていってほしいのかなという気はしています。

(総合 F) ありがとうございます (拍手)。

C 班のほうに移っていただければと思います。では、よろしくお願いします。

(拍手)

—— C 班は、①は、多様性というのはどういうことですかとか、どうやって作っていきますかという質問に対して、皆さんで答えていきました。

まず、多様性という目標を示すだけで十分ではないか。トップの人が多様性ということを考えること。多様性というのは本当に多様なわけですから、それぞれが考える。こういうことが多様性だと。まず、多様性ということ意識することがすごく大事なんじゃないか、という意見が出ました。

その他に、それと反するというよりは、もっと具体的な話になると思うんですけども、例えば NRC の前長官を採用する。他の業界の人と人事交流をする。これは組織全体のことなんですけれども。専門家以外の人に関わる。同一大学卒者を選ばないこと。学歴にこだわらないこと。というような意見がありました。

あとは、全体ではなくて、やはり決定権者の中にも多様性は必要で、年齢幅を設けるとか、女性とか、外国人を入れるとか、他の組織で働いた経験がある人をいれるとか。

というような、組織全体のこと、決定権者のところ、それぞれ多様性が必要だという意

見がありました。

2つ目に取り上げたのが、信頼される第三者機関とはどんなものか、ということです。

これに対する回答ですが、まず当事者が信頼されるように努力すべきということと、第三者機関を作る前に、IAEAなどの国連機関の報告を活用すること。

その次のステップとして、今まで当事者しかいなかったんですけども、まず第三者機関を作ろうということを目指すべきだと。

で、もし作るのだったら、どんな人たちが入ったらいいかというと、専門知識を持っている人。コミュニケーションや社会学などの専門家、やはりここも多様性。専門家以外の人が入った組織。あるいは、立地地域の市民団体、安全について考えている団体があるので、そういうところに専門家が入った組織がいいんじゃないかという意見も出ました。

入る人はこんな人なんですけれども、組織全体の性格として、コミュニケーション戦略を持った組織。広報担当者の顔が見えるということが大事ではないか、という意見が出ました。以上です。(拍手)

(総合 F) ありがとうございます。質問がある方は、手を挙げていただければと思います。

—— そこに質問を書いたんですけど、第三者機関を作るというのはすごくいいと思うんですけど、時間が経つと、結局そこもムラになってしまう。取り込まれてしまうんじゃないかと。最初にできたときはクリーンでいい組織なんですけど、何年か経つと、少しずつ、ムラなのではと言われて。専門家も入れると、またムラではないかと言われて。というふうになってしまうと思うんですけど、どのように信頼されるのを維持していけばいいと思いますか？

—— 結構それを意識している意見があって。国が作るんだけど、会社とか組織とか大学を辞めた人、出向で帰れる人ではない人。そういう人で作ればいいんじゃないのかなとか。あとは、政府と行政に関係のない人。立地地域の市民団体に専門家を混ぜるというのもそのひとつの回答じゃないかなと思います。

(総合 F) どうでしょうか？

—— そうですね、できた当初はそれでいいと思うんですけど、何十年も経ったらどうなのかなって。

(総合 F) ということは、信頼を得る組織というのは、そういうことを常に考えていかなければいけないという課題があるということですね。

—— ええと、そうですね、今思ったんですけど、そのときはここが活きるんじゃないかなど。やはりトップの人がそれを常に意識するという考えを持っていることが大事なんじゃないかなどちょっと思いました。

—— 時間が経つと組織が腐っていくという考え方もあるんですけど、実績を積み重ねて、むしろ信頼性が向上していくという、そういうあり方もあるんじゃないかなど。まあ、それは魂の入れ方次第だと思うんですけど。

(総合 F) 分かりました。どうもありがとうございます。(拍手)

それでは、A 班のほうにお願いします。

—— A 班です。話した順番は Q1、Q2 だったんですけども、Q2 のほうが大きいくりだったので、先に Q2 を説明します。

Q2 は、何があれば信頼できるのかということ。それに関わって、説明という発表をしたので、情報の中身はどういうものか。先入観をなくすためにはどうしたらいいか。というような質問でした。

出た回答を分けていくと、情報の出し方という部分で、透明性を持って説明する。速く、正しく、分かりやすくというような話。はっきりとした情報を、というような情報の出し方についての意見。あとは、時間をかけて繰り返しやる、継続するという視点がありました。あとは、情報の中身ということで、不具合情報とか、都合の悪い情報。あとは、原子力は危険なもので、どう危険かということ。で、危険なものとして、それを管理する方法とか技術の説明が必要なんじゃないかということ。環境汚染、廃棄物処理コスト、お金のこと。そういうこともちゃんと説明してくださいと。メリット・デメリットということですね。

次に、Q1 なんですけども、場とか、説明についてもう少し詳しく考えていったという感じです。説明が分かりづらいからアレルギーを生むということ。嘘を言われているんじゃないかというような、不信感を持ってしまうような説明をしていたということ。広報の仕方が、やはりあまり上手じゃないんじゃないかということですね。あとは、教育という話もどちらにも (Q1、Q2 とも) 出ました。

あ、ごめんなさい、Q2 で、場のあり方についての話もあったので、それをクローズアップすると Q1 かな、という話なんですけども。前後してすみません。場のあり方について、一方的な質問が多いので、質問をする場がほしい。質問に対しては答えを言ってくれる場がほしいということですね。

で、このフォーラムがいいんじゃないかという視点の中で、推進側の支援が必要、だけど、そうすると推進側の意見に偏るんじゃないかというジレンマがあるという話。それから、ここでもやはり時間がかけて繰り返しするという話がありました。あとは、誰が、ど

のような方法で、資金は誰が出すのか、という視点が必要ですねということ。コミュニケーションの専門家がやったらどうですか。どんどん広げていくことが必要じゃないかという話で、インターネットを利用するといいいんじゃないですか。SNSとか、テレビとか。興味を持たせるような話とか、ノベルティグッズを使ったらどうでしょうか、という話が出ました。

ええと、Q3も一応バーツと言いますね。経営陣・意思決定者のことを話していて。倫理感を持って進めましょう。コンプライアンス教育。幹部に流動性を持たせる。人物ではなくて、マインドを変えていきましょう。ムラの中の人だけではなくて、外の人も決定者に入れていきましょう。といった意見でした。ありがとうございます。(拍手)

(総合 F) 質問のある方はどうぞ。質問、あるいはコメントでもいいです。

では、ちょっと確認をさせていただきたいんですが、こういうフォーラムのような場がいいんじゃないかというのは、例えば、こういう話し合いの場のイメージでおっしゃっているのか。どんな場のイメージなのか、もうちょっと教えていただくとありがたいのですが。

—— 話に出たのは、やはり、この場を肯定しているというのが前提にあったと思うんですけども。

—— あとは SNS ですね。

—— そうですね。あとは、広げるということで、SNS。

(総合 F) こういう顔の見える場だけではなくて、そういうコミュニケーションツールを使うと。

—— ただ、ネットはちょっと怖い。ネットは顔が見えないものだから。

基本的にこちらの班では、こういうフォーラムの場が有効であったということを皆さん認識しているんですけども、ただ、1億人を対象にしたらどうすればいいかという質問があったので、1億人対象でフォーラムはちょっと厳しいものがあるから、その場合は、NHKで、横にダーツとコメント(ツイート)が入っていくものがありますよね。ああいう感じでやればどうかと。

ただ、家にパソコンのない人も今どきもいますし、その辺はありますけど。まあ、コミュニケーションを取っていくときには、そういうツールも必要ではないかということですか。

(総合 F) 分かりました。ありがとうございます。この班の方、何か追加でコメントあり

ますか？ 皆さんもよろしいですか？

どうもありがとうございます。お疲れ様でした。(拍手)

では、お席にお戻りください。